



鳥取こども学園 学園だより

第 49 号
2021年6月1日

〇発行
社会福祉法人
鳥取こども学園

鳥取市立川町5丁目417番地
電話 (0857) 22-4206
<http://www.tottorikodomogakuen.or.jp/>

題字 尾崎悌之助

認定こども園へと歩みを進め

幼保連携型認定こども園 鳥取みどり園

園長 西垣 恭子



暖かな陽に心のやわらぎを感じる春となりましたが、4月1日より鳥取市に「新型コロナ感染増大情報」が発令され、今年も、慶びの日であります入園式には在園児は下より、地域の皆様もお呼びできませんでした。何の不安もなく行事が出来る日はいつやって来るのでしょうか。寂しさも残りましたが、29名の新しい子ども達を迎え、全園児146名で、令和3年度の春が無事にスタートできましたこと、本当に有り難く思います。

人は出会うべき時に、出会うべき人や物事に会おうと言われています。そして、それらの出会いは何らかの意味を持った出会いであることも。今年もまた、可愛い子ども達とその保護者の方々に出会わせてくださいましたイエス様に感謝しながら、新しくやって来た子ども達が、それぞれにその子らしさを発揮し、在園児や私達保育教諭との関わりの中でどのような姿を見せながら成長してくれるのか本当に楽しみです。キリスト教保育を行っている本園の基本理念は『愛』です。皆様から託された本園に集う子ども達一人一人を丸ごと愛し、園生活が子ども達にとって喜びと希望に満ちたものとなるよう、日々の教育・保育に務めていきたいと思えます。

さて、4月に創立70周年を迎えます園舎の赤い屋根がお日様にきらきらと輝く「保育所鳥取みどり園」は、養護施設の子どもの世話を長年続けておられた藤野と先生（現理事長の母）が、施設で暮らす子ども達から、子どものための良い教育は、幼児期か

ら始めないといけないとの強い思いから、鳥取こども学園に併設され、初代園長を勤められました。

創立に力を尽くされたとり先生は、キリスト教を信仰する人であり、人の幸せのために絶えず祈り、行動され、献身された方であったと語り継がれています。先生がわが身をもつて示された「福祉の精神」と「愛の精神」は、70年間歩み続けている本園職員の普遍的倫理として受け継がれ続けています。大事にしていきたいと思えます。

このように、70年間、保育所として、地域内外の乳幼児を受け入れ、3680名もの卒園児をそれぞれの小学校へと送りだしてきた本園は、子どもを取り囲む環境が目まぐるしく変化する地域や社会のニーズに応え、今年度より「幼保連携型認定こども園 鳥取みどり園」へと移行し、新しい歩みを進める運びとなりました。

幼保連携型認定こども園は就学前の子どもに対して教育と保育を一体的に行い、幼稚園と保育所両方の役割を担う施設です。3歳からは保護者の就労状況などに関わらず利用でき、就労状況などが変わった場合でも、通いながら本園を継続して利用していただけるようになりました。また、子育て支援員として、満3歳になる年度の4月から2歳児のお子様を受け入れも出来ます。様々な子育て支援のニーズに応えられるようになったことで、地域の子ども達皆が集える園となれたこと嬉しく思います。

さて、認定こども園となりました本園は、法律上、学校となり「遊びを中心とした乳幼児期にふさわしい生活」の中での遊びが、小学校以降の教育につながる質の高い幼児教育を進めていくことが求められます。

この学びへ向け、今年度の教育・保育は「健康な身体づくり」を重点とし、本園が自慢としていますのびのびと活動できるグラウンドや、砂場や樹木のある2つの園庭、野菜作りが体験できる畑、四季折々の遊びが楽しめる園舎周りの自然を活かした遊びや活動を実践し、五感を通じた自然との関わりの中で心と身体の育ちを確かな学びへと繋げていきたいと思えます。

子どもは自然とすぐに仲良しになって遊びこみます。広いグラウンドへ出ると思わず走りたくなります。砂場はみんなが集まる集い場となり、遊びがどんどん広がっていきます。四季折々の陽の光、風、空の色、葉や草の匂いや感触は子どもの心を解き放し、感じる心を豊かにしながら驚きや発見が心を揺さぶります。散歩の途中で見つける蟻やだんご虫も友達となります。子ども達は遊びを通して、今何を学んでいるのか、今何を学ばせたいのかをしっかりと問い続ける私達保育教諭の一年としていきたいと思えます。

最後になりましたが、今年度、創立70周年記念事業として、7月23日～25日の間、とりぎん文化会館で認定こども園移行に伴うチャリティー企画「現代国際巨匠絵画展」を開催します。園児作品のコーナーもあり、多くの方々に楽しんでいただけたらと思います。

今後も地域の皆様には大変お世話になることと思えます。何卒ご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。

興一じっちゃんのおぶやま

理事長
藤野興一 記

16あなたがたのだけれど、彼らに、「安心して行きなさい。暖まりなさい。満腹するまで食べなさい。」と言っただけで、からだに必要な物を何一つ与えないなら、何の役に立つでしょう。17信仰もこれと同じです。行ないが伴わないなら、信仰はそれだけでは、死んだものです。

1 第30回記念石井十次賞を受賞した。

①創立116年目を迎える鳥取ごども学園の歩みと歴代の役員、子どもたち、支援くださった多くの方々への神様からの賜物と感謝したい。

②贈呈式は、4月14日、石井十次生誕の地・宮崎県高鍋町「たかしんホール」で行われ、高鍋町の小学5年生全員が出席しており、石井十次の精神は地域の文化として受け継がれてきたことをまのあたりにした。私の謝辞も参加している小、中、高校生に向けて語りかけた。

③授賞式に引き続いて、高鍋町の小、中、高校生から公募して、優れた石井十次顕彰意見発表に対して教育長から「なわのおび賞」が贈られた。

④私は、町を挙げての大歓迎を受け、以下の通り貴重な学びの時を持つことができた。

高鍋藩は代々秋月家により文武両道にわたる善政が引き継がれてきた。第

五代(1710~1734)種弘は、武士や農民の身分に関係なく誰でも学べる学問武芸稽古所を設置した。第六代(1734~1760)種美は、稽古所に予算を付け、優秀な師弟を江戸・京都に留学させ、貧しい農民に資金貸与した。麦焼酎(百年の孤独)販売開始。第七代(1760~1788)種茂は、児童手当を支給し、大阪から破格の待遇で、産婆を招聘し人口増を図った。博打を厳禁し俵約通達を出し、農民困窮時には年貢を半減、凶作に備えて穀物備蓄を開始した。藩校『明倫堂』を開講し身分に関係なく入校させた。この種茂の弟治憲は、現在の山形県・米沢藩の第九代藩主となった上杉鷹山であり、瀕死の米沢藩を見事に立て直した。大胆な俵約、農政改革、藩校創設、間引きの禁止と養育手当支給。地場産業振興など兄種茂が高鍋藩で実践成功させたものだった。

その後も、日本の明治維新に大きな役割を果たした秋月種樹をはじめ、多くの人材を輩出した。

〈高鍋町発行「高鍋学のすすめ」より〉

⑤コロナが世界中で猛威をふるい、地球温暖化、海水汚染などの環境問題が地球規模で進行し、巨大な災害も頻発している。ミャンマーの軍事クーデターや中国の「モンゴルウイグル族」への人権侵害事件、香港への徹底弾圧にも見られる深刻な人権侵害事件も多発している。

⑥日本では、『京都アニメーション放火殺人事件』のような誰でもよかつた

殺傷事件が繰り返され、結愛ちゃん事件やみあちゃん事件の様な悲惨な虐待死事件も全国各地でエスカレートしている。

⑦主の愛の業に導かれ、今一度原点に帰りたい。神様から与えられたこの地球を守り、悲惨な戦争を二度と起こさないで暴力の連鎖を断ち切り、人間の尊厳を守り抜くために歩み続けたい。

⑧人類は百年毎に新型感染症との死闘を余儀なくされ、人々の生活や政治文化の枠組みを変えながら進歩してきた。このような時だからこそ鳥取ごども学園の祈りの業が求められる。

2 子ども・若者が、新たな闘いの先頭に立ちつつある。共に歩みたい。

①2015年4月、「課題と将来像」実現により、40年近く動かなかった施設最低基準が大きく動いた。職員配置は1対1レベル、家賃補助は実費支給、大学等への進学も措置費対応となり、都道府県等が認めればみな可能となった。

②だが2017年8月の「新ビジョン」登場により、その実績が全て反故にされようとしている。反故にさせない闘いが必要であり、子どもたちの居場所と日本の優れた福祉文化を守らねばならない。

③コロナウイルスは、自然や心より目先のお金や便利さを追い求めてきた価値観の転換を迫っている。その中で、世界中の子どもたちが未来に向けて発言し、闘いの先頭に立ちつつある。今年9月に80才を迎える私も、人

生百年時代、神の「愛」を信じ、子どもや若者の仲間であり続けたいと祈り、願う。

3 鳥取みどり園70周年記念事業をご支援下さい！

①保育所鳥取みどり園が1951年の創設から、今年4月に70周年を迎えた。記念事業として、2021(令和3)年度から定員を145名に減らし、「認定こども園」に移行させることとした。

②また、築31年たつて、給食室をコロナに負けない、広いスペースを確保した、子どもたちが中をのぞける明るい建物に増改築する。

③更にまた、2021(令和3)年7月23日(金)25日(日)、「とりぎん文化会館」を会場として、「鳥取みどり園創立70周年チャリティー企画『現代国際巨匠絵画展』を開催する。

④ピカソ、シャガール、東山魁夷などの巨匠たちの作品と並べて、子どもたちの作品も展示したり、招待画家と一緒に子どもたちが作品を作ったりするワクワクするような楽しい展示会にし、この機会に広く地域の人に鳥取みどり園や鳥取ごども学園のことを知っていただく機会にしたい。

⑤今のところ、公的な資金は三千万円程度で、四千万円以上は銀行借り入れしなければならぬ。いつも恐縮ですが、出来るだけ多くの方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

よろしくお願ひします。 在 主

児童養護施設

鳥取子ども学園

前向き思考で、感謝蔓延

園長 田 中 佳代子

年度末に県外への進学・就職自立・家庭復帰等で16人と例年になく多くの子ども達を見送り、子どもと職員がゆったりと過ごす姿が見られる年度初めです。進学・進級と子ども職員も新たな気持ちで新年を迎えています。退所した子ども達の様子も見守りながら縁をつないでいます。

全国・世界中どこでも同じ状況だと思えますが、昨年来のコロナ禍で、いろいろなことが様変わりしてしまいました。学園も行事はすべて中止、県外出張もなし、不要な外出の自粛等、人との交わりが極端に減り、リフレッシュの機会やコミュニケーションを取る場面が減りました。そのような中でもホーム職員は子ども達がコロナ禍の苦痛を感じないように、自然を相手に活動したり、楽しみのある場を提供するなど、『よく考えるな』と感心する寄り添いをしており、感動と感謝の連続の一年でした。今年度も同じ状況が続いていますが、感染予防を強化し

たなかで『どうしたら当たり前の生活を確保出来るか』という視点で取り組みたいと思います。コロナ禍だからこそ、気づいた利点(リモート研修は、多くの職員が利用しやすい等)も生かしたいと思っています。不自由なときだからこそ、お互いを思いやり、今まで以上に子ども職員も『自分も他人も大切にしよう』という学園のきまりを遵守する、『ホームごとの営みを尊重しながらも学園家族としての結束を深める』歩みの年としたいです。学園は修立地区に位置しており、地域とは長いお付き合いです。地域の皆さんは、学園前土手や河川の美化等の意識が強く、皆さんで取り組んでくださっています。大勢の地域の方々と一緒に作業しながら、素晴らしい地区で子ども職員も大切にいただいていることを実感し、感謝と幸せを感じています。今年度も地域、関係者の皆様のご理解・ご支援を賜れるよう歩んでゆきますのでどうぞよろしくお願い致します。

心機一転

ブロック長 石 田 航

今年度より、つくしホーム、こすもすホーム、地域小規模養護施設いるどりの

ブロック長を担当することになりました。勤続15年、一貫してこすもすホームを担当していたこともあり、自分自身の環境が変わることに不安と戸惑いを感じている次第です。

思い起こせば15年前の9月、ちょうど鳥取子ども学園設立百周年にあたる年に学園での生活がスタートしました。当時は右も左もわからず、ホーム長や先輩職員の背中を見ながら、日々目の前のことをこなすことで精一杯だったように思います。子どもたちと寝食を共にしながら生活することの楽しさを感じる反面、養育することの難しさ、大変さを痛感するようにもなりました。とかく人間関係でのトラブルは精神的にかなり疲弊しますが、ここではそつた場面が少なくありません。自分の中では常識だったものが子どもにとっては全く通用しないことも多々ありましたし、正直逃げ出したくなったりすることも数多くあります。無視や反発を繰り返して、夜帰って来ない、学校に行かない、学校の池から勝手に鯉を持ち帰る、冷蔵庫にあるはずの抹茶プリンがなくなっているとかふて拗ねる…大きなことから小さなことまで、あの手この手でメタルを削られて来ました。しかしながら私は今もここにいます。なぜかそんな仕打ちをして来る彼ら彼女らですが、

素直に話を聞いてくれたり、健気に約束を果たそうとしてくれたり、困って泣きながら助けを求めてきたり、無邪気に笑ってみせたり、鯉をきちゃんと池に戻したり、と天使的な側面を見せてくれる時があるからです。ツンと押しを巧みに使ひこなし、私の心をつちりと掴んでくるのです。そこです、みんなズルいのです。余談が長くなりましたが、私の今があるのは紛れもなく子どもたちのお陰です。本当はもっとこすもすホームの職員を続けたいのが正直なところですが、立場は変われど今後も子どもたちに寄り添いながら関わっていかれたらと思っています。

さて、新年度も始まりましたが、新しい環境に不慣れだったり、想定外のことが起こったりしているためか、毎日が怒涛のように過ぎていきます。つくしやいろいろい入ると幼児軍団が待ち構えており、戦いごっこを挑んだり、肩車やおんぶを求めてきたり、子どもたちのパワーに圧倒されています。ここ数年、幼児と関わる環境になかったこともあり、懐かしさを覚えるのと同時に老いを感じているところです。ブロック長としてはまだまだ駆け出しですが、子どもたちからもらった財産を糧に、各ホームをサポートしていけるよう精進していきますので、何卒よろしくお願い致します。

新任職員のご自己紹介

◆すみれホーム



保育士
宮田 恵里花

今年度からお世話になります。子どもたちと一緒にたくさん経験をして成長していきたいと思っています。子どもたちが笑顔で過ごせるよう、私も笑顔で頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

◆つくしホーム



支援員
白 築 駿

ホームでの勤務が始まり、2回目の宿直の夜を過ごしています。沢山の業務を教わり頭がパンクしそうになる時もありますが、ふとした時の子どもや職員とのゆったりとしたやり取りがとても楽しく、この雰囲気大切にしたいなと思いました。これからよろしくお願ひします。

◆なかよし園



支援員
明 石 美 晴

私は幼少期より人の役に立つことをしたいという思いがあり、老人福祉や障害者福祉、児童福祉の分野に従事してきました。

した。今までの経験を活かしつつ、たくさんを学んでいきたいです。宜しくお願ひ致します。



調理員
小 谷 成 美

4月より皆さんのごはんを作っています!!

食事をする事って1日の中ですごく楽しみじゃないですか？

そんな皆さんの楽しみの為にも一生懸命おいしいごはんを作ります!!

不慣れなことも多くご迷惑をお掛けすると思いますがこれからよろしくお願ひします。

乳 児 院
鳥取こども学園乳児部

魚釣りをはじめました

家庭支援専門相談員
園 田 秀 幸

これまで「これ」といった趣味がなかった私ですが、コロナ禍と職場の同僚の影響もあり、魚釣り(ルアーフィッシング)を始めました。竿の準備の仕方

も、何もわからない状態だったので、39歳の私は、一つひとつ同僚に聞いていく事が恥ずかしく、始める時にはとても勇気がいりました。やみくもに竿を振っていても釣れるものではなく、まず、魚は何を狙いたいのか?それによって、どんなルアーを使った方がよいのか?を考えます。細かいことを言えば、天候や時間帯によってもルアーを変えた方がよいようです。最近になってようやく、変なプライドと恥ずかしさを捨て、同僚や店員に相談できるようになりました。

さて、いざ海に向かってルアーを投げるのですが、最初は投げることもなかなか上手いかずに大変でした。何回か練習を重ねると、思うように投げられるようになり、自分に合った投げ方もわかってきました。投げ方だけではなく、ポイントを変えながら投げたり、ルアーを変えてみて変化を持たせることも大事なようです。経験を重ねることも大切ですが、正しい知識を得ることや柔軟な思考を持つことが必要ということですね。本当に魚釣って面白いし、奥が深いところづくし思われます。

私を夢中にさせてくれる魚釣りのことを書きましたが、これは私の乳児部での

業務(家族支援やケースワーク)や子育て(養育)にも通ずるものがあると思います。子どもや家族の姿から支援の目標を持ち、支援の仕方を模索し、どんな方法があるのか情報を得る・学ぶ。悩んだ時には専門職や現場職員に話を聞いてアドバイスをもらつてみる。実際にやってみてどうだったかを振り返り、上手いかなければまた相談して、別の方法も試してみる。時には違った視点や角度でアクションをかけるような柔軟な思考。空振りもたくさんあるかもしれませんが、決して意味のないものはないと思います。こんな養育や家族支援をチームで、また保護者の方々、各関係機関の方たちと協力してやっていけたら最高だと思っています。

チーム連携の大切さを実感することになった取り組みを1つ紹介します。それは、鳥取こども学園乳児部から鳥取こども学園(児童養護施設)へと生活の場を移した子どもへのアフターケアです。これまでの乳児部のアフターケアには課題がありました。例えば、子どもの様子を聞く機会が少なく、どのタイミングでアフターケアをすればよいかわからない、そもそもアフターケアとは何をすることなのか...、担当だった職員が他の部署へ異動・退職した場合はどうする

のか」などです。児童養護施設の職員も同じように、乳児部のアフターケアをどう受け入れたらいいのかと、葛藤を抱えることもあるのではないかと想像します。しかし、これまでそれぞれが抱える課題や葛藤を一緒に考えていく機会がありませんでした。子ども一人ひとりに、様々なアフターケアの持ち方があることは必要です。しかしその違いが、職員の意識や、職員間でのコミュニケーションの頻度、業務量などから生じてしまうのはどうでしょうか？こういった課題は、いち職員やホームだけで抱える問題ではなく、施設として検討していかなければいけないと思います。

昨年度、この課題に取り組むべく、ある一人の子どもへのアフターケアについて、児童養護施設のホームやブロック長と、月に1度話し合いを積み重ねてきました。乳児部からも元担当職員・ホーム長・家庭支援専門相談員（主任）が参加をし、「今、この子どもにはどんな関りがアフターケアとして必要か」を一緒に考えてきました。さらに、その内容を院内に周知し、報告・相談をする中で、院内の多職種から意見をもらい、施設全体で一人の子どものアフターケアに取り組むきっかけにしたいと考えました。この会に参加した職員は、「互いに子ども

の事を思って、そんなことを考えていたんだなあと思った」「もっと口頃から、児童養護施設の職員と乳児部の職員で交流や意見交換が必要だと思った」などの気づきがありました。大事なものは、その子にとってその時、その先、にどんなアフターケアが必要かを知り、関わっていく事。その子が乳幼児期に大切に育てられたことを乳児部がいつでも・いつまでも語ることが出来ること、なのではないでしょうか。この取り組みが、乳児部から生活を移す子どもたちに必要とされるよう、発展することを願っています。

新年度がスタートしました。子どもたちの生活がさらに充実したものとなるように、そして、その中で地域支援の体制も整え、地域に貢献できるよう、鳥取子ども学園乳児部は頑張っていきたいと思っています。ひろーい海のような心も持って。今年度も4月から子どもたちの明るく元気な声が絶えません。子どもに負けず劣らず職員が元気で優しい声も聞かれます。職員がちょっとうるさすぎる時もあります。この元気でコロナもぶっこんでいきなすつです。ぼくのルアーと同じように。

新任職員の自己紹介



調理員
山田 恵子

この度、調理員としてお世話になりました。初めての経験ですので、慣れるまで大変ですが、皆様に教えて頂きながらがんばりますので、よろしくお願ひ致します。



調理員
西谷 和子

五月から調理の方で、お世話になりました。十数年前にご縁があり、とても懐かしく感じています。又、先生方や子ども達においしい食事を作るお手伝いをさせていただけの事もうれしく思っています。どうぞよろしくお願ひ致します。

児童心理治療施設
鳥取子ども学園希望館

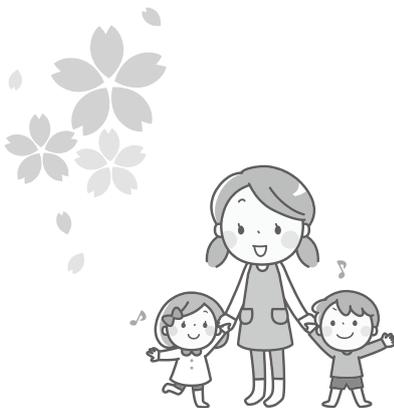
「令和3年度ネオ希望館」
を作っています

館長 花川 治 応

コロナ禍での2回目の新年度が始まりました。自粛生活の中で不器用に抑え込んだいろいろな思いが混ざって、言葉にならない今まで以上に落ち着かない日々です。

希望館では、新年度を迎えるにあたり、新たなスタッフが9名加わりました。子ども達は新たなスタッフがどんな人だろうと不安を抱えながら恐る恐る付き合ってくれています。毎年の事ながら落ち着かない春です。この学園だよりが出るころには子どももスタッフも少し落ち着いていることを願っています。

当法人の特色の一つは、乳児期から幼児期、児童期さらには思春期の先の自立支援までと子ども達の成長段階や状態に合わせた生活の場が用意されている事です。そしてスタッフはそれぞれの施設（ホーム）を異動交流しながらも、子ども



もの実態を長いスパンで捉え、関わるこ
とができる点です。子ども達には不安な
思いをさせてしまいますが、視点を変え
ると「鳥取こども学園」という大きな家
族(スタッフ集団)が自分を護っている
と思ってもらえるようにと願っていま
す。直接の関りが減っても自分の事を昔
から知っている人がいるということも子
ども自身の連続性が一部ではあれ保障
される安心感につながると思います。

「鳥取こども学園」の中で「希望館」
の主な役割は「思春期」という人格の脱
皮ともいふべき一番苦しい時期の生活の
安定を請け負う役割です。しかも希望館
に加わる子どもたちは、どんな理由があ
るにしろそれまでの生活の中断を強いら
れ、不安のまま人生の立て直しを求めら
れてやっています。

強い不安からスタッフに対して警戒の
ための無視や威嚇攻撃を無意識にぶつ
てきます。不安を受け止めながらもダメ
なことはダメと押し返す。同時にささや
かな変化や努力を見つけて子どもにも伝
えていく。この辛抱強いやり取りで、ゆっ
くりと子どもの警戒や不安を薄めていく
作業の大切さと子どもの表情がどんど
ん変化するやりがいを新しいスタッフにも
感じてもらうたいと願っています。

できれば法人内のスタッフの多くが希
望館を経験して子どもたちの育ちをこの
長いスパンの流れの中で捉える事が出来
るようになることが当たり前になればよ
いと思いい、今年も養護部及び乳児部から
4名のスタッフが加わりました。
事務部門でもバックアップ強化のため
新たに1名加わっていただきました。
焦らず、あきらめず。スタッフと入所
の子ども達24名、通所の子も達11名で
「令和3年度ネオ希望館」をこれから
作っていきます。
皆さま今年も応援よろしくお願いま
す！

新任職員の自己紹介

◆さつきホーム



児童指導員
竹内 愛美

初めてのことがばかりで、不慣れな部分
も多いですがホームでの生活に慣れて、
子どもたちと楽しい毎を送っていただ
けたいと思います。よろしくお願いま
す。

◆わかばホーム



児童指導員
山本 友利香

分からない事ばかりで皆さんにはいつ

も助けられてばかりですが、少しでも子
ども達の力になれるように精一杯頑張り
ます。よろしくお願います！

◆こぼとホーム



児童指導員
鈴木 聖成

僕の趣味はサッカーです。また、初心
者ながら今年の1月からピアノを習い始
めています。

目標は子どもからも大人からも信頼さ
れる人になることです。そのために一つ
一つ教わったことを吸収して活かせるよ
うにします。

◆しらゆりホーム



児童指導員
井 菜瑠実

まだ分からないことだらけですが、子
どもたちと共に成長し、日々楽しい時間
を積み重ねられるよう頑張ります。よろ
しくお願います。



事務員
西尾 沙織

毎日が勉強の日々ですが、1日1日を
大事に、楽しみながら早く仕事を覚えて
いきたいと思っています。これからお世話に
なります。よろしくお願います。



看護師
垣谷 季美

4月から希望館で働かせていただくこ
とになりました。未熟な部分がたくさん
ありますが、様々な関りを通して成長し
て行けたらと思っています。よろしくお
ねがいします。

認定こども園
鳥取みどり園

笑顔いっぱい

副園長 古川 典子

園前の桜が咲き誇る4月1日、鳥取み
どり園は、保育所から幼保連携型認定こ
ども園になりました。移行と同時に副園
長を担うこととなり重責を感じています。
副園長として私にできることは…子
どもたちが日々安心して自己表現でき、笑
顔で過ごすためには、人的環境である保
育教諭が子ども一人ひとりと丁寧に向き
合い・寄り添い法人の理念でもある「愛」
で子どもたちを包んでいけるように縁の
下の力持ちでありたいと考えています。

新任職員のご自己紹介

子どもたちは、自分を取り巻く身近な大人を常によく見て模倣します。例えば、保育教諭が絵本の読み聞かせを毎日するのですが、その真似をかわいい小さな保育教諭になってしているのをよく見かけます。その姿はやがて、自分がどんな人になっていきたいのか、どんな風になりたいのかといった大人になる自分の未来につながっていきます。

保育教諭である私たちは、子どもたちがイメージする「大人としてのモデル」であり、常に子どもたちに寄り添って存在です。したがって、子どもたちが自分生きていく世界にどれだけ目を広げていけるかは、私たち保育教諭がどれだけ広い世界をもっているかという点ではないでしょうか。保育という仕事を通して、自分自身の世界を広げていくことが、より良い保育の実現に一番必要なことなのではないかと思えます。日々、自分自身も視野を広く持ち、五感で感じる豊かな感性を身につけ、楽しい園になるよう創意工夫していきける人間でありたいと思えます。

微力ではありますが、子どもたちが毎日「みどりの園楽しいな。また、あしたあそびたいな♡」と思いつ通園してほしいな、全力していきたいと思えます。皆様方のお力添えをよろしくお願ひ申し上げます。



保育士 表 葵 奈

初めてで不安なことはありますが、子どもたちと保育やあそびを通して、安心できる場になるよう関わっていただけらと思います。よろしくお願ひします。



保育士 加 藤 健

まだ分からないことが多く、職員の方々の色々な指導を元に頑張っていますと思えます。よろしくお願ひします。



保育士 亀 井 琴 未

分からないことが多く、不安もありますが、周りの先生方を頼っていきながら、笑顔で元気に子どもたちと過ごしていこうと思えます。よろしくお願ひします。



看護師 但 井 真 由 美

3月から、鳥取みどりの園で働かせていただいております。元気いっぱいの子どもたちと明るくスタッフの皆さんに囲まれ、

楽しい日々を過ごしています。

今は、支えて頂きっぱなしですが、安心を与え、支える側になるよう、丁寧な関わりに努めていきたいと思えますので、よろしくお願ひ致します。



神も仏もない

〜無神論者が神に出逢った時〜

医師 川 口 孝 一

学園にクリニックが出来てから11年、

東日本大震災（東北地方太平洋沖地震＋福島第一原子力発電所事故）から10年、縁あって福島へ医療支援に行かせて頂く様になってから9年が経ちました。福島は今なお災害の渦中にあります。「コロナ禍でこの一年は福島に参れずオンライン診療となっています。震災直後ある患者さんが私に（政府がメルトダウンを発表する前から）「原発はメルトダウンしている。被災地支援に行くなら、福島です。」とアドバイスして下さいました。その患者さんは引きこもってはおられまし

たが、被災地支援の動きは速く、ネット関連のポイントを寄付金に換える様に企業に働き掛ける運動にいち早く加わり活動されていきました。その後別の患者さん（既にその方も被災地海岸清掃活動のボランティアに行っておられました）が新聞の切り抜きのコピーを何枚か下さり、その中に兵庫県西宮市で精神科クリニックを開業されている医師が福島県相馬市のクリニックで医療支援に行っておられる記事がありました。何か出来ることがないかと探していたところでしたので、早速当クリニックの岡田保健師と西宮へ、そして福島県相馬市のクリニックへ話を聴きに行き、医療支援に行かせて頂くことになりました。患者さんが福島へと導いて下さったのです。

しかしこの11年間には「神も仏もない」と思っ様な出来事もたくさんありました。無神論者の私（キリスト教関連の施設で働きながら公然と言っ不逞な奴）がこう申すのも矛盾しているのかも知れませんが、神の存在を信じてこそ、「神も仏もない」と言っ良いのかも知れませんが、2、3年前のことです。福島支援関連の事で酷く落ち込んでいた時、当時クリニックの事務をしていていた田井みどりさんが、「ハチドリのひとつしゅく」と言っ物語をプレゼントして下さいました（残念なが

ら紙面の関係で内容をご紹介できません。(この物語に、この物語をプレゼントしてくれた田井さんに、この時は救われました。由井さんの中に神を見た様な気がしました。突然ですが、「山名さん(希望館男子ブロック長、体育会系大男にしてハートは繊細な男)は神」と言っておられた保護者さんがおられました。水野さん(希望館女子ブロック長、同じく体育会系大男で唯一?)私に気を遣って私を大切にしてくれる男」と話(何の話だったかは忘れた)をした後、「教会に行ってみようかなあ」と何故か不覚にも思ったことがありました(勿論まだ教会へは行っていません)。こうして思い起す多くの人(神?)に導かれ支えられて生きていくのだなあと思います。

無神論者と言いながら、私も人を通して多くの神に出逢えているのかも知れません。ひょっとしたら私の中にも神が居て、その神が私の苦悩を伴に嘆いてくれる人を通して、私を救って下さっているのかも知れません。以前あるクリスチャンの患者さんに「信仰がある方は強い。私は捻ねているから、神に出逢いたい」と思っても出逢えませんでした」と言ったら、『神に出逢わせて下さい』と毎日お祈りして下さり、まじまじと出逢えますよ」と教えて下さりました(捻ねられてい

るので実行出来ていませんが)。本当にそうなのかも知れません。神との関係も投影なのでしょう。「諸行無常」「一切皆苦」のこの世において、無神論者の私は出逢う人の「慈悲(苦悩を伴に嘆く)」を通して、この世を去るまでにいっただけだけの神に、そして不思議な縁に出逢えるのでしょうか(仏教の言葉を使って締めくくるとは、我ながら捻ねている)。

児童家庭支援センター
「子ども家庭支援センター」希望館

20周年を迎えました

所長 山中 八寿子

今年も教育棟の前庭のハナミズキの花がきれいに咲きました。

また、春が来たよ、今年も暖かくみんなを見守っているよ」と咲いてくれるようにです。

このハナミズキ、私が花びらと思っていた4枚は、実は花びらではなく葉から変形した総苞(そうほう)というもので、実際の花びらは総苞(そうほう)の中心にある部分(私はおしべ)思っています(のよつで

す。これを知りまた愛おしく思いました。このハナミズキが見守ってくれている教育棟の1階に当センターはあります。平成9年、改正児童福祉法上に児童家庭支援センターが登場しました。それを受け、平成11年11月 児童家庭支援センター 子ども家庭支援センター「希望館」が設置され20周年を迎えております。

子ども家庭支援センター「希望館」では、主な事業として、子どもの悩みや問題に対する家庭やその他からのあらゆる相談や専門的な知識や技術が必要とする相談援助業務を行っております。

この相談や援助業務は多岐にわたっていますが、センターに来ていただいている相談として学齢期の不登校や性格行動等に関する相談が多くなっております。電話による相談も増えており、相談件数のトータルで見ると昨年度は平成22年度の約3倍の件数となっております。また、学齢期前の相談も少しずつ増えてきています。

20年間の歩みの中で児童福祉法も改正を重ね、児童家庭支援センターに求められることも変化してきております。このよつな中で、今年度は、より地域の皆様の一歩に即した適切な相談援助業務が行えるようにするにはどうしたらよいか再考の年にならんと考えております。そ

して、地域の皆様に親しんでいただけるセンターとなるようチームで取り組んでいくと考えておりますのでよろしくお願いたします。

※家族・子育てについての悩みや、子どもに関するあらゆる相談に応じます。

相談料は無料です。

○電話相談

月曜日～金曜日 朝8時30分～夜12時
(緊急の場合は、休日・祝日・時間外も24時間対応)

○来所相談

開所時間 月曜日～金曜日
朝8時30分～夕方5時30分
専門の相談員が対応します。

鳥取県里親養育包括支援事業
里親支援センター

ある春の別れ

所長 遠藤 信彦

年度末の週末、なじみの里親さんから相談のごつよりの、しびやきを聞いて欲し

いこの電話がありました。これまで何年も、何人もの子どもたちのあずかりを一緒に取り組んできた福祉司さんが、この春、他の部署に異動してしまつたことです。その日、せっかく家まであいきつに来てくれたのに、タイミング悪く会うことが出来ず、玄関に、お別れとお礼の置き手紙があつたとのこと。その福祉司さんとは、あずかつた子どもたちの育ちについて一緒に一言一憂し、何時間も膝を突き合わせて議論してきたそうです。他の市の児童相談所や、県庁の児童養護担当課だったならまだ、また里親業務で会えることもあつただろうけど、子育ての現場から遠く離れたところに変わられたから、それもかなわず寂しい、しょうがないから子どもたちを連れてその庁舎をたずねるわ、と、つぶやかれました。それだけ残念に思うほどに固い信頼関係で結ばれていたのでしょう。

全国里親会が発行している冊子の中にこんなエピソードがあります。「かわいしさかりの1歳児を1年間あずかり、その子は無事に親御さんのもとにかえつていったのだけれど、その後、思わずその子の名前を呼んでしまつたり、一緒に遊んだ公園で思わず立ちすくんでしまつたりするといつことがあつた。しかしその時、その子の担当の福祉司さんが、本当

に良く育ててくださった、ありがたうございませ、とお礼を言つてくれ、一緒に泣いてくれたので落ち着くことができた」といったお話です。児童相談所の福祉司さんは、里親さんが安心して、いきいきと暮らすことができるよう、さまざまな手を尽くし、東奔西走されています。制度にのっとりながらも柔軟に、ときにはクールに、ときには夕方に尽力されています。そして、置き手紙の福祉司さんばかり、一緒に泣いた福祉司さんばかり、里親さんの心に寄り添う人間味と情があふれる方がかりです。

残念ながら、福祉司さんは、数年おきに部署をかわつてしまいます。さまざまな現場を知ること、広い視野を身につけられるのでしょうか。数年ぶりに、子育ての現場に戻ってきた、といった方にお会いすると、やはり一回り大きく見えま

す。広い視野を持つ強みもあることながら、ひとつどころで見つめ続ける強みもあると信じています。当所が里親さんと歩みはじめてから、早くも10年が経ちました。もうずいぶん顔なじみですから、安心して話ができると思います。ときにはつぶやきを傾聴し、ときにはともに泣いて、福祉司さんの人間味に負けないよう、精一杯つとめてまいります。

自立援助ホーム
鳥取フレンド
鳥取スマイル

新たな船出

統括寮長 田村 崇

2021年度(令和3年度)、鳥取子ども学園自立援助ホーム部門(鳥取フレンドと鳥取スマイル)は新たな歩みを始める時となりました。

まず、長年統括寮長を務めてこられた山中さんに代わり、田村がその任を担っています。それから竹中さんが鳥取スマイルの寮長となり、スマイル運営の指揮をとっています。また、鳥取フレンドに岸本さん、鳥取スマイルに中村さんを新たなスタッフとして、わたしたちのチームに加わっていただいています。それぞれの個性を大切にしながら、縁あつて出会った若者たちと一緒に、スタッフ一同力を合わせて鳥取子ども学園自立援助ホーム部門を支えていきたいと思っております。ご支援よろしくお願ひいたします。

運営面でも新たな試みがあります。『自立支援担当職員』を配置してO.B.

とO.G.の支援に力を入れていきます。積極的退居者支援です。自立援助ホームでは、「彼らから関係を断ち切らない限り、ホームからは絶対に関係を断ち切らない」、「困ったときはいつでも相談に来て良い」などの思いが退居の際に伝わっているように心がけています。

しかしホームを巣立つた若者たちから、我々がよく耳にし考えさせられることは、自立援助ホームを退居した若者が感じているひとり暮らしの寂しさであり、孤独であり、将来への不安などです。彼らが声にして発してくれることはほんの一部分で、一見大人からしてみれば『そんなことを』と思えるようなことや、『言い出したくてもなかなか言えない悩み』など、一人一人にとってはとても重要で深刻な事柄をいっぱい抱えているのだと感じています。そこで、今までの受身的支援(連絡を待つ)から、一歩踏み出した積極的支援です。まだまだスタートしたばかりなので、いろいろと試行錯誤しながらの船出ですが、人と人の関わりが、生きていく上で大切なものを創り出すんだということを信じ、邁進していきたいと思います。

自立援助ホームは制度のないところから始まり、全国各地に広がっていき、今日に至っています。その歴史の中にある

変わらない大切な思いとともに、あらゆる困難や変化に対して柔軟に決断力を持って対応していきたいと思っております。こつこつと我々が若者たちと生活を共にし、関わりが生まれ、それらを通じていけるのは、今、この学園だよりを読んでくださっている。あなた、に支えられているのだというここと。ありがとうございます。の気持ちを心に留めながら、1日1日を大切にしていきたいと思っております。

次なるステージへ

鳥取スマイル

寮長 竹中愛彦

令和3年4月1日より「鳥取スマイル」の寮長をさせて頂くことになりました、竹中と申します。

鳥取スマイルは、平成17年に倉吉スマイル開設(平成26年鳥取スマイルに移設)より16年間、田村前寮長が務められ多くの子ども達への自立支援や退所後のOB・OGのアフターケアに携わってこられました。そして、前年度までは全国自立援助ホーム協議会の会長もされておられ、歴史ある鳥取フレンド同様に全国的にも知名度の高いホームになりました。この度、その後任を引き継ぐことに大き

な責任を感じております。

とは言え、私に特別なことが出来るチカラがある訳もなく…。

自立援助ホームの職員はもとより、当法人には素晴らしい先生方がおられます。その他、関係機関・地域の方々も含めた多くの大人と繋がり、今まで様々な背景から厳しい環境で育ってきた子ども達に希望の光が照らされるよう役目を果たす気持ちでいます。微力ではありますが、鳥取スマイルが大切にしている「当たり前」の日常を心掛けながら、子ども達の精神的・経済的な自立の一助になるよう尽力させて頂きたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

この春、鳥取スマイルは嬉しいことに3名の子ども達が無事退所し新生活を始めました。現在は、新たに1名を迎え男子4名と共に生活しています。中心メンバーだった子ども達の退所や職員体制も変わり、あまり変化のなかった近年と比べると戸惑いも多いのではと感じています。毎晩、賑やかだったリビングも少し静かになり、今までは異なる雰囲気寂しさもあります。それでも、今いる子ども達も同じように遠からず次のステージへ向かわなければなりません。現状に満足し次の目標が持てない者、夢と社会の現実には悩む者、

社会の厳しさをなかなか受け入れられない者等、各々が日々、課題と悩みながら一歩ずつ歩んでいます。

彼らのありのままの個性を尊重しながら、一緒に生活し、寄り添い、小さな当たり前の生活の積み重ねが子ども達の安心と成長へ。そして、将来の希望に少しでも繋がればと感じております。

ご支援いただいている皆様には、日頃よりご理解とご協力いただき感謝しております。今後ともよろしくお願ひ致します。

新任職員の自己紹介

◆鳥取フレンド



指導員

岸本有紀

鳥取こども学園で働きたく、保育士資格を取得しました。

その夢が叶い、とても嬉しい気持ちとワクワクした気持ちです。

もちろん楽しいだけでなく、辛いことも大変なこともあると思いますが、子どもたちや職員の方々から日々学び一生懸命頑張ります。

◆鳥取スマイル



指導員

中村浩二

1月に、36年間務めた海上自衛隊を退官し異業種へ飛び込みました。皆様には色々な場面でお世話になることと思っております。

皆様方の協力を得ながら、1日も早く環境に慣れ子ども達と共に明日に向かって成長していきたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

鳥取養育研究所

レンチキユラー

事務局員 鷲見智明

鳥取養育研究所(以下、養研)にとってもコロナウイルスの影響は大きいです。昨年度はオンラインで会議を開くなど工夫はしたものの、ほとんどの事業が歩みを鈍化させられました。今年度は、これまで以上にオンライン技術を磨きながら、活動に取り入れていくことを役員



会で確認しています。大変な状況ではあります。現状であるからこそ起こり得る化学反応も大切にしていけたらと思っています。

さて、養研では以前からとても大きな課題があります。運営の担い手の世代交代です。1986年に設立された「第一次鳥取養育研究会」においても、同様の課題で会の活動は休止状態に至っています。課題克服には魅力ある活動が欠かせません。しかし、僕自身、「研究」というと敷居を高く捉えています。「何かお手伝いできることがあれば何でもやる」という思いで活動をしています。が、「研究」に対して及び腰となることも多々あります。「研究」に対する敷居の背後には、自分自身の自信のなさがあり、そこに他者との力関係を感じ取っている。「勝手に」の部分も多いのですが、…というところだと思います。

そんな中、ここ最近、魅力ある活動に向けて発見したこと(代り映えのしないものかもしれないが…)を2つ記しておこうと思います。

① 毎年開催している「子どもと施設の権利擁護全国ワークショップ」の活動を継続するか否かという議題の際、私は「これだけ価値を認めていただいている活動であれば継続していくべき」

と述べました。しかし、ワークショップメンバーから返ってきた答えは「楽しいからやっている、楽しめないなら一度立ち止まって見ても良い」という僕にとっては衝撃的なものでした。「研究」は、敷居の高いものなんかではなく、「楽しいからやるもの」だったのです。

② 養研では、鳥取県児童養護施設協議会でユース(施設在籍者・出身者)と大人がパートナーを組んで結成されたグループ「Hope & Home」(略してH&H)の活動支援に取り組み、鳥取県に子どもアドボカシー機関を創設することを目指した研究活動を行っています。昨年度は、鳥取県で子どもの権利ノート改正の動きがあり、ユースの声を反映させたものにするという機会がありました。そこでは、「大人目線での文言が、子ども目線での文言が不明な点が多い」、「子ども目線で書ききってほしい」、「使い方への配慮が必要」といった声が届けられました。子ども側に立つって考えると至極当然なことに気付くのですが、施設職員目線ではわからなくなってしまうのです。

子どもたちの声を叶えるためにパートナーとなって一緒に動いていく視点がとても重要なことだと気付かされま

す。「一番弱い立場にある子どもたちの声が大切にされること」を実現させるには、力関係にある大人同士のやり取りにおいても、弱い立場の人の声がパートナーとして大切にされることがもともとと保障されていないと不可能に近いのかもしれない。

自信がないことや、弱い立場であることが悪いことはありません。きちんと受け止められていれさえすれば、それぞれの立場で自分にはできないこと・自分には気づけないことがあります。発見したことを身の回りから行動に移していくことが、養研の課題解決へも近づいていくのだと今は考えています。鳥取養育研究所の活動への参加をお待ちしております！

障がい福祉サービス事業
はまむら作業所

10回目の春を迎えて

管理者 山岡 宏樹

早いもので、はまむら作業所ができて10回目の春が参りました。開設当初は数名

だった利用者も、現在は日々16名程度となり、コロナ禍でありながら、日々作業で大忙しです。この春には法改正も行われ、就労継続支援B型の事業所としての在り方も、時代と共に変化していかないとけない事と痛感しています。

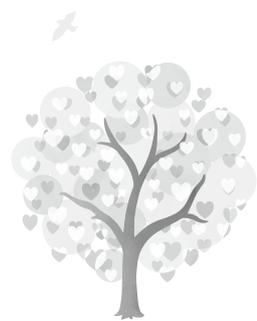
振り返ってみると、最初はまず自宅から事業所に通ってもらう事がメインで、働く事や作業を通して収入を得ていく事自体が本当に困難だった時期もあったように思います。小規模な畑をお借りして野菜の種まきからはじめ、水やり草取り、それらを収穫し販売先を探すなど、毎日を乗り切る事、利用者と前進する事で精いっぱいでした。それでも、日々の利用者やスタッフ、地域の方との関わりの時間や食事の時間など日々の何気ない時間を共にするのが楽しく、また事業所内外の作業時間は気づきもあり、大変だったように感じますが、充実した時間だったように思います。少しずつですがはまむら作業所を「居場所」として通って来て下さる仲間も増え、また日中の活動内容も増え事業所としても充実してきました。

月日と共に、多くの方と出会い、お別れをしていきました。地域の皆さま、支援機関関係者の皆さまの協力もあり、また、開所時から法人の力強い協力もあり

り、工賃の支払いの為の作業も増えていきました。日中活動には、作業だけでなく、いろいろな余暇活動や訓練も取り入れ、作業以外の時間も充実させていきました。結果、利用者やスタッフと共に積み重ねた日々が実を結び、仲間の利用者の人数も増え、作業の量を調整していく事、チームとしての活動も増えました。中には就職したり、他の事業所にステップアップしたり、また事業所を離れ他の選択肢を選ばれた方もいますが、この5年は特に「変化」や「成長」がたくさんあったように感じます。「働く事、お金をいただくとはなんだろう」、「この先も生活し続ける為にはどうしたらよいのか」、「ここに居てもいいのだろうか」など、利用者にとって居場所だけでなく、人生の前進に必要な選択をする「訓練」の場所の提供、それを共に考える時間を事業所は求められるように変化していったように感じます。作業や日々の訓練、関わりを通し、10年かかりましたが、就労継続支援の事業所として成長していったように思います。

この先数年、10数年、私や私達スタッフはどつとしていくべきなのか…。新型コロナウイルスの出現に伴い、事業所として未知の不安が続く日々ではありませんが、社会福祉法人鳥取こども学園の障が

い福祉サービス事業所として、いろいろな世代の方々、はまむら作業所を利用する仲間の皆さん、支援機関関係者の皆さん協力事業者さん、ご家族、地域の方と共に、日々の変化や日々の成長をありのまま受け入れ、それに対しての行動を積み重ねていきたいと思えます。もう一度一人ひとりと丁寧に向き合い大事な時間を積み重ねいろいろな日々の選択を共にしていきたいと思えます。そして、はまむら作業所が、利用者にとってずっといい居場所、就労訓練を共にできステップアップをしていく時間を共有できる場所、人生の選択をし事業所を旅立つけれど時々寄ってもらえる場所、また、スタッフにとっても働き甲斐のある場所として存在し続けられるよう活動していきたいと思えます。その為には、これからも事業所内外の方々のご指導やご協力も頂戴しながら毎日を通じてと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。



事業所内保育施設
とりのつぼとび

いっしょに遊ぼう！

チーム長 中村 秀子

桜の花が満開を迎えた4月。爽やかな風によって小鳥たちのさえずりが心地よく感じる季節に今年も新入児1名が加わり職員12名、園児6名でスタートしました。在園児もひとつ大きくなってかわいなお兄さん、お姉さんになりました。年度当初は私を筆頭に新任職員との出会いに緊張や不安から涙を見せる子どももみられました。大好きな保育士のそばで泣きやみ、遊び始めるうち次第に笑顔もみられるようになってきました。異年齢で過ごす園生活の中で少しずつ友だちを意識するようになり、近づいて手を伸ばしたり、同じ玩具を欲しがったり、保育士や友だちの動きをまねてやってみようとする姿も見られます。時には「○○ちゃん、ないてる…」と様子を気にかけ、知らせる等心の動きを感じることもあります。周囲への興味・関心の広がりと共に「やってみよう」「さっさと」「さっさと」気持ちの芽生えが日々の行動につながっ

ているのです。そつした相手をいたわり、思いやる心を育みながら子ども達にとつて健康でのびのびと、楽しく過ごせる場となるようにしていきたいと思えます。

そのために欠かせないのが職員同士のチームワークです。子ども達同様もしくはそれ以上に個性豊かで活発な仲間達。保育士はもとより看護師、事務員、栄養士等…立場は違いますがそれぞれの「専門性」持ち味」を生かしながら子ども達に寄り添い、ひとり一人に向き合いながら職員一丸となって育ちをつないでいくことが必要です。子ども達に負けないよう職員もお互いに声を掛け合い、願いを共有して共に歩いていきたいと思えます。

また、今年度も隣接するわくわく子育て支援センターや新しく認定こども園で



公園で砂遊び

なつたみどり園との交流を計画していま
す。未就園児や園児とのふれあいを通し
て、より楽しい時間を過ごしながらか
わりを広げていきたいと思えます。そし
て、天候が良い日は近隣の公園にも積極
的に出かけていきますので地域の皆様
にも出会うことがあるでしょう。これまで
同様、温かく見守り気軽にお声かけい
ただけたらと思えます。どうぞよろしくお
願いたします。

新任職員のご自己紹介



保育士
前田 小百合

子どもたちが毎日楽しく、安心して過
ごせるように一人ひとりの関わりを大切
にし、笑顔で頑張っていることと思いま
す。よろしくお願いたします。



保育士
大久保 咲季

4月よりお世話になっております。
分らない事はばかりで、職員の方々に
様々な事を教わっている最中ですが、と
ても新鮮で楽しい日々を送らせて頂いて
います。

元気がいっぱい頑張っていきますの
で、ぜひぜひよろしくお願いたします！

退所児童等アフターケア事業
ひだまり

ひだまりの取り組みについて

所長 岡本 秀人

退所児童等アフターケアひだまりは、
鳥取県内の児童養護施設等を退所した方
や、退所を控えた児童へ生活支援・就労
支援・自立研修開催・施設出張訪問
(キャリアアカウンセリング)等を実施し
ています。

以下、取り組みについて触れさせてい
たきます。

まずは、OB・OGのアフターケア支
援です。社会に出た後、困ったことやト
ラブルに直面する機会が少なからずあり
ます。環境の変化・社会における問題に
直面し、一再ならず頭を悩ませる場合は
ご経験された方は多いものと思えます。
ひだまりでは、伴走者として問題解決に
向けて支援を実施しています。随時ご相
談は承りますのでまずはご一報くださ
い。

また、ソフトバンクチャリティ様より
助成金を受けて『自立研修・準備はO
K!』／『プレ社会人デビュー大作戦』を

実施しております。昨年度で三シーズン
目を迎えました。「コロナ禍の影響もあ
り、各施設での分散開催・オンラインで
の研修実施を併用するという「新しい
形」での実施となりました。講師として
県議会議員の福浜隆宏先生をお招きし、
「コミュニケーションの心得等、社会に出
た後で必須の事柄を取り上げていただき
ました。『全力のあいさつ』『自身の考え
を知ってもらう』など、時に『実際に
やってみよう』ということ子どもたち
にもあいさつをしていただいたり、意見
を述べる場面を設けて頂いたり、より実
践的な内容でした。終了後のアンケート
でも「勉強になった」回答が多く寄せら
れています。今後ウィズコロナの時代を
勘案して、小さな単位での研修会を、
個々の子どもたちのニーズをくみ取りつ
つ、継続していければと考えています。

今後、県内の施設へ訪問させていただ
き、各種相談の受付や、キャリアアカウン
セリング実施を検討しています。職場見
学・体験のご要望も従前どおり承りま
す。そしてより多くの方に対して「個別
的・具体的な」支援に務めていきたいと
考えていますのでよろしくお願致します。

自助グループ(レインボーズ)の活動
にもコロナ禍の制約が伴った一年でし

た。例年実施している各種イベントへの
参加が出来ない(イベントそのものが中
止になる)状況下にあっても、新メン
バーの加入もあり、三密を避けたスポー
ツイイベントを実施するなど工夫を凝らし
た交流を実施しています。今年度も新規
メンバーの加入が予定されて今後の活動
に、期待と可能性が膨らんだものと考え
ています。

これからも引き続き、「ひだまり」は
立ち止まらず、時代に即した活動を展開
したいと考えていますので、関係各位な
らびに心を寄せてくださるOB・OGの
皆様方のご支援お力添え等、よろしくお
願い申し上げます。



氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
酒 巻 佐 代 子 田 村 裕 子 岡 村 進、衣織 吉 田 健 一 郎 (有)堀 鍍 金 工 業 所 代表取締役 堀 いづみ 小 竹 原 寛 (株)メモワールイナバ 水 戸 千 代 子 前 田 悦 子 高 力 房 枝 子 邨 上 啓 子 (株)ル ー ト シ 代表取締役 小谷裕雄 小 長 井 賀 與 子 コールおもかげ 代表 大谷昭子 濱 本 五 十 鈴 宏 竹 本 芳 宏 (有)代表取締役 運山下教幸 菊 池 み つ え 明 近 藤 榎 夫 新 矢 楢 一 (有)中 央 企 画 一 池 上 聡 秀 一 稻 村 秀 一 日本キリスト教団 倉吉上井教会 入 江 順 子 鳥取市立城北小学校PTA 山 本 智 文 小羊チャイルドセンター 小羊教会 代表 市川益子 荒 尾 雄 二	松 浦 静 江 林 眞 弘 盛 本 裕 子 (株)葡萄 萄 家 代表取締役 山根一利 濱 田 久 美 石 川 俊 浩 榎 直 子 松 永 陽 明 山 根 青 果 (株) 代表取締役 戸田暖久 福 田 明 彦 堀 内 苑 生 高 橋 昌 文 赤 畑 仁 司 佐 藤 道 男 伊 藤 継 俊 西 垣 恭 子 川 下 泉 坂 根 政 代 井 上 裕 子 タニグチ・ヘア・サロン 谷口義明 竹 内 亜 理 子 若 木 太 郎 栗 本 悦 子 日本基督教団 米子教会 西伯更生保護女性会 会 長 石塚桂子 鳥取南更生保護女性会 会 長 山田曠恵 鳥 取 鶏 卵 販 売 (株) 代表取締役 長田淳	リセット 溝口智子 溝 口 好 美 秋 崎 る り 子 西 山 裕 子 青 戸 一 義 大 森 琴 世 正 林 督 章 (医)きむら耳鼻咽喉科医院 樹 林 舎 山田恭幹 浅 野 和 子 鳥取県労働者福祉協議会東部支部 (有)山本ハウス工業 代表取締役 山本繁雄 川 戸 淳 裕 浅 田 悦 子 一 心 啓 館 伊 吹 啓 子 卓球サークル キッツテール 渡 部 守 章 大 谷 恭 一 加 藤 由 紀 田 中 佳 代 子 (有)湯 所 薬 品 代表取締役 油谷博文 磯 田 教 子 玉 木 敏 久 三 和 商 事 (株) 西 尾 美 智 子 (有)赤山建築設計事務所 代表取締役 赤山善男 (株)竹内クレーン工業 代表取締役 竹内秀明	コ ガ ト シ ヒ コ 鈴 木 洋 平 綱 島 健 之 東 邦 子 斎 藤 基、春 代 グループ鳥 池長りょう子 鳥取県教職員組合東部支部 片 村 俊 子 尾 田 一 壽 寿 司 江 戸 吉 小 谷 和 惠 (備)あ す な ろ 会 理 事 長 濱崎淳子 清 水 雅 彦 山 中 捷 二 山 中 友 子 (有)サ ン コ ウ 河 田 瑛 子 影 久 眞 智 ほんものショップ モリケン 森 田 憲 司 高 槻 成 紀、知 子 天 德 寺 熊 谷 努 下 田 奈 美 前 田 厚 彦 福 士 久 美 岩 淵 明 美 松 田 章 義 水 谷 昭 二 増 田 千 尋 無 名 氏

物 品 寄 付 者

(R 2.11.10 ~ R 3. 4.16)

敬称略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
パンドラの箱鳥取店 米 田 正 雄 え が お (株) スリーパー鳥取店 加 藤 貴 代 美 小 倉 一 浩 フ ァ ニ ー レ イ 全国シャンメリー協同組合 清 水 由 紀 子 大 樹 寺 春 奥 田 吉 春 鳥取南更生保護女性会 会 長 山田曠恵 鳥取市立修立小学校 U F O 吉 方 店 U F O 秋 里 店 U F O 扇 町 店 松 下 暢 子 チャレキング 間屋口 安 本 芳 子 日 本 鏡 餅 組 合	柳 田 次 郎 中 村 艶 子 リブレット基金事業団 (株)G R O W U P 代表取締役 柴原史則 ローソン鳥取立川店 市川和也 鳥取いなばライオンズクラブ 会 長 池田康利 福 田 養 蜂 場 鳥取市立宮ノ下小学校5年生 山 根 健 太 郎 ハ ロ ー ズ 鳥 取 店 浅 井 富 美 子 袋川をはぐくむ会 粟嶋道和 ソ ロ プ チ ミ ス ト 南 條 芳 浩 鳥取県中小企業団体中央会 メガネ工房ジョイルック 福 田 眞 山 岡 圭 一	山陰中央新報社 鳥取総局 フィリップモリスジャパン合同会社 ヤ マ ネ 機 材 エ フ ピ コ 上 田 (株) 海 陽 亭 (株)鳥 取 鶏 卵 販 売 株グループホールディングス 猪口吉野 井 上 信 正 米 田 浩 一 とっとりキルトクラブ 谷口義子 修立小学校教職員 (株)G R O W U P 代表取締役 柴原史則 徳 田 商 店 NPO法人 白うさぎ 山 本 正 明 本 光 寺 本 願 寺 山 根 幸 雄 リセット 溝口智子	溝 口 好 美 (有)紀ノ国屋本店 前田沙織 中 川 裕 一 清 水 カ ズ 子 谷 本 順 子 清 水 宣 春 (株)ワイティーエス 中村匡秀 ひ よ し 走 出 園 枝 尾 崎 悦 子 森 本 富 士 子 辻 隆 志 鳥取県母子寡婦福祉連合会 村 田 篤 美 浅 田 達 実 長 谷 川 正 昭 中 村 敦 司 竹 内 一 哉 森 山 明 無 名 氏

法人事務局よりお知らせ

1. 『note』での情報配信を始めました。

社会福祉法人鳥取こども学園は、様々なツールで情報発信をしております。

- (1) 法人ホームページ <https://www.tottorikodomogakuen.or.jp/>
- (2) facebook
 - ① 法人facebook <https://www.facebook.com/toriko01>
 - ② 認定こども園 鳥取みどり園 <https://www.facebook.com/tottorimidorien>
 - ③ 事業所内保育施設 とりっこらんど <https://www.facebook.com/torikkoland1941>



法人noteトップページ

(3) note https://note.com/tottori_kodomo
より多くの方々へ情報配信することを目的にメディアプラットフォーム『note』を活用することとしました。本年1月よりマガジン形式で情報配信しております。

法人、施設、事業所の様々な情報をこの3つのツールをリンクさせながらお伝えしていきますので、是非ご覧ください。



2. オンライン寄付募集サービスをさらに充実させ、様々な形でご支援いただけるようにいたしました。

- (1) 学園だより前号にてオンライン寄付募集サービス『Syncable』による寄付募集開始をご案内いたしました。クリスマスドネーションにご支援いただきありがとうございます。
<https://syncable.biz/associate/toriko01/>
- (2) ブランド品買取サービス「ブランディア」と寄付プラットフォーム「Syncable」が共同で運営するBrandPledge(ブランドプレッジ)のページも用意しております。送られてくるダンボールに洋服やブランド品を詰めて送り返すと査定額からご寄付いただけます。
<https://brand-pledge.jp/associate/toriko01>

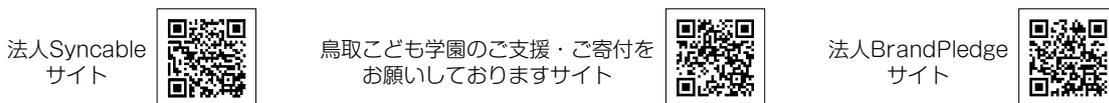
その他、詳しくは『鳥取こども学園のご支援・ご寄付をお願いしております』ページをご覧ください。(ページ上部に様々なご寄付の方法を掲載しております)

<https://tottorikodomogakuen.amebaownd.com/>

ご寄付と併せて、facebookやtwitterのアカウントをお持ちの皆様は是非「シェア」していただくとありがたいです。

私たち社会福祉法人鳥取こども学園がさらに歩みを続け、私たちの施設で出会った子どもたち、これから出会う子どもたちへの途切れることのない応援とご寄付をお願いいたします。

(事務局次長 山本隆史)



●従前どおり銀行口座へのご寄付は、下記へお願いします

法人本部：〒680-0061 鳥取市立川町5丁目417番地 鳥取こども学園内
TEL 0857-22-4206 FAX 0857-23-0242

振込口座：郵便振替 01490-9-9106
鳥取銀行本店営業部 普通預金 7645611
山陰合同銀行鳥取営業部 普通預金 3422812

口座名義：社会福祉法人鳥取こども学園 理事長 藤野 興一

※なお、郵便振替は寄付金・後援会費共通口座となっておりますので、寄付金・後援会費のどちらかに○をしてお入金ください。

●後援会会費は下記へお願いします

振込口座：鳥取銀行本店営業部 普通預金 0405970
口座名義：鳥取こども学園後援会 会長 村上 亜由美

【お願い】

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発刊しています。同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考慮のことですので、ご理解いただきますようお願い致します。今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。